

1. 研究背景・目的

近年、郊外住宅地では少子化に伴い利用する児童の減少や、多様化した現在の住民のライフスタイルや価値観と現存する公園との間にギャップが生まれていることから衰退した街区公園が現れ始めている。その中で、港北ニュータウン(以下港北 NT)の街区公園は周辺の施設や道路を含めた配置計画・内部設計が成されているので、他の郊外住宅地に比べると衰退は進行しにくいと考えられる。本研究では港北 NT の街区公園の利用実態と住民の意識を調査することで、当初の計画と現在の利用実態の関係性、住民と街区公園の関係性を把握し、今後都市の一空間として街区公園がより魅力ある空間を実現するための知見を得ることを目的とする。

2. 研究の枠組み

2.1 港北ニュータウン

港北 NT では自然環境を保存するため、隣接する土地利用に跨って緑地を保全する「GMS(グリーンマトリックスシステム)」は重要な空間構成の手段として計画された。GMS では、歩行動線によって周辺の土地利用機能を一体的な系に束ね、特に公園緑地整備においてはこの計画を通し全域と個、場と周辺を考慮した空間イメージを個別の設計に反映させている。

2.2 調査対象エリアの選定理由と特徴

調査対象地域は港北 NT の計画の中での街区公園の位置づけを把握するため、それぞれ港北 NT の GMS を構成する主なオープンスペースである緑道・大公園(近隣公園、地区公園等)・歩行者専用道路・駅前広場を含み、充実した公共施設からのサービスを受けられると思われるエリアを選定する。

2.3 研究方法

図 1 の①～④の街区公園において観察調査、および周辺住民へのアンケートを行う。観察調査は 2018 年 11 月上旬から 11 月中旬にかけて行い、平日と休日にそれぞれ 10 時から 17 時の間各公園に 1 時間毎

に 20 分滞在し、①属性(幼児、小学生、中高生、大人、高齢者)②行動③グループ構成をそれぞれ記録した。アンケート調査では 4 つの街区公園の誘致距離 250m 圏内の住宅に配布し、後日郵送により回収した。なお、調査票は一戸につき 3 通配布し、年齢又は性別に別々の回答を依頼した。

表 1 アンケート調査概要

配布日	回収日	配布部数 (世帯数)	回収部数(世帯数)/ 回収率
11/20(火)、 11/21(水)	12/7(日)	900部 (300世帯)	115部(64世帯)/12.7%
調査概要			
設問 I	居住者自身について		
設問 II	最も近い街区公園に対する意識		
設問 III	公園での活動、今後について		
設問 IV	GMS(他公園系統:緑道、歩行者専用道路、大公園、他街区公園)との関係性		

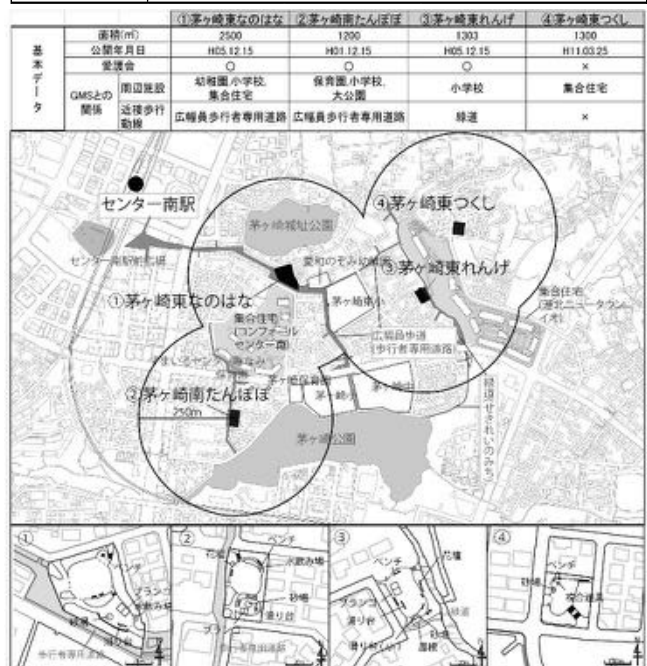


図 1 アンケート配布範囲と調査対象公園概要

3. 街区公園における利用実態と住民意識

3.1 公園系統全体での街区公園の位置付け

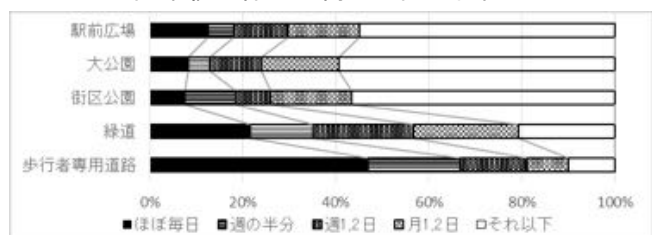


図 2 利用頻度

街区公園の利用頻度は最も低いが、定期的に利用する人が約35%を占め、全体的な利用率は高い。

表2 公園系統別利用目的

	歩行者専用道路	緑道	大公園	街区公園	駅前広場
1遊具で遊ぶ	0%	0%	0%	7%	0%
2遊び・スポーツ	1%	5%	12%	20%	8%
3散歩	11%	22%	21%	12%	10%
4犬の散歩	9%	14%	15%	7%	5%
5休憩・休息	1%	2%	3%	2%	13%
6立ち話	3%	1%	1%	3%	8%
7通勤・通学途中の移動	24%	12%	5%	6%	6%
8通勤・通学以外の移動	39%	28%	11%	9%	19%
9自然の木々や植物を楽しむ	1%	9%	11%	9%	2%
10水飲み・水汲み	0%	0%	1%	0%	0%
11子供と一緒に遊ぶ	0%	1%	11%	20%	10%
12食事をする	0%	0%	0%	0%	10%
13該当なし	9%	5%	9%	7%	10%

港北 NT の豊かな公園系統がある中で街区公園は主に遊び(子どもとの遊び含む)と散歩を目的とする場所であり、港北 NT のネットワークにより歩行空間の一部として活用されている。公園系統同士の利用目的は異なり、すみ分けられている。

### 3.2 街区公園利用実態の特徴

平日は時間帯ごとの利用者が異なる集中利用が見られた。これは幼稚園・小学校などの周辺施設の影響が大きい。特に平日の幼児の利用は幼稚園付近での立ち寄りが多く、親同士の会話・子同士の遊びでの滞在型利用が多い。また小学生は小学校に近い街区公園を大抵は通り抜けし滞在での遊び利用は少なかった。休日では昼間を除きどの時間帯でも異なる属性の同時利用が見られ、いずれの公園も家族での利用がほとんどであった。小学生の友人同士での利用は平日休日共に広場が広くエリアの中心に位置する街区公園に人数の多いグループでの遊びが集中した。また、GMS の緑道・駅近くの歩行者専用道路など GMS 上のサービスを多く受け得る公園には世代を越えた多様な利用が見られた。

### 3.3 街区公園に対する住民意識

広場が広いと長所に挙げている公園と広場が狭いと短所に挙げている公園を比較してみると、満足度は同じ位に高いが、その要因として広場が狭くとも景色の良さや花や植物が多いことの評価は高く、広場の広さと同じ位に憩いの空間は満足度に繋がることが分かる。また4つの中では特に④の評価が低く、遊具の少なさなどが短所にあげられた。また、街区公園に期待する役割・設備に着目してみると、全体として憩いの空間や季節の樹木などの設置への期待が高く、子どもが遊ぶための空間以外の利用への期待が高かった。

## 4.まとめ・考察

街区公園の遊び利用は平日では幼稚園の近接による影響を大きく受け、小学校の近接にはあまり影響されなかったが、通り抜けも含む利用では周辺土地利用の影響が大きかった。休日にはどの公園でも分散した利用があった。今後期待される憩いや癒しの空間としての利用をする人も既に現れつつあったが、これらは特に GMS の歩行動線の連結部分で通り抜けの多い公園で見られ、通り抜けのしやすさとの関係性なども考えられる。また、GMS の歩行動線から外れ周辺土地利用の少ない街区公園も存在し、平日には選択されにくく閑散とした様子があった。配置の問題では解決できないこれらの街区公園ではより魅力的な活動や設備を設置し改善する必要がある。全体として満足度は高かったが、住民の多様な利用を踏まえた整備や活動を今後も行う必要がある。

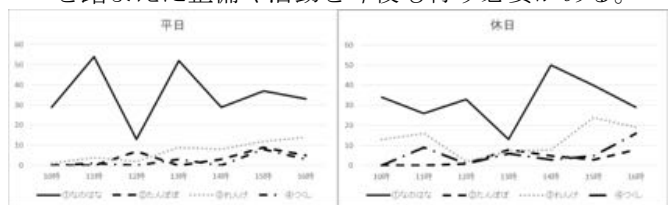


図3 時間帯別利用人数

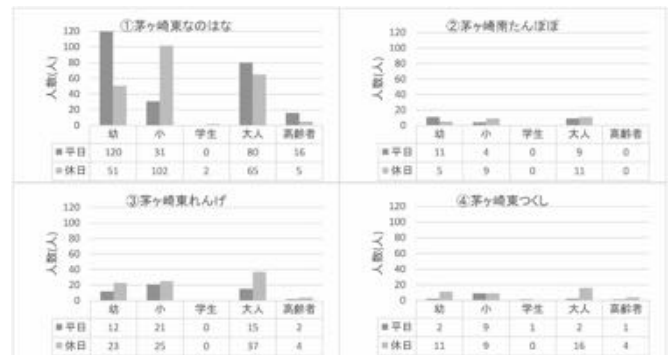


図4 属性別利用人数

表3 住民意識

公園名	①茅ヶ崎東なのはな	②茅ヶ崎南たんぼぼ	③茅ヶ崎東れんげ	④茅ヶ崎東つくし
満足度(5点中)	3.89点	3.63点	3.77点	2.95点
長所	1 広場が広い 2 見通しが良く安全 3 特になし	1 広場が広い 2 見通しが良く安全 3 特になし	1 見通しが良く安全 2 景色の良さ 3 花や植物が多い	1 特になし 2 見通しが良く安全 3 静かさ
短所	1 特になし 2 ベンチ・座れる場所が少ない 3 その他	1 特になし 2 その他 3 ベンチ・座れる場所が少ない	1 特になし 2 広場が狭い 3 ベンチ・座れる場所が少ない	1 特になし 2 遊具が少ない 3 ベンチ・座れる場所が少ない
期待する役割	1 子供がと遊べる場(遊戯) 2 憩いの場、座れる場 3 緑あふれる環境	1 子供がと遊べる場 2 憩いの場、座れる場 3 緑あふれる環境	1 子供がと遊べる場 2 憩いの場、座れる場 3 緑あふれる環境	1 憩いの場、座れる場 2 子供がと遊べる場 3 緑あふれる環境、美しい風景
期待する設備	1 季節の樹木 2 トイレ 3 芝生空間	1 季節の樹木、特になし 2 トイレ 3 花壇	1 季節の樹木 2 トイレ 3 ドッグラン、特になし	1 季節の樹木 2 花壇 3 ドッグラン、特になし
期待する活動	1 清掃・花壇、季節の行事 2 ミュニティガーデン活動、BBQ 3 DIY、遊具づくり	1 季節の行事 2 清掃・花壇 3 BBQ	1 季節の行事 2 清掃・花壇、コミュニティガーデン 3 ラジオ体操	1 季節の行事、ラジオ体操 2 清掃・花壇、コミュニティガーデン 3 BBQ、アウトドアリビング

【謝辞】本研究を実施するに当たり、多大なご協力を頂きました住民の皆様、港北ニュータウン研究会の皆様には深く感謝を申し上げます。

#### 参考文献

- 港北地区オープンスペース計画・設計技術資料集/港北ニュータウン記念協会
- 嶋田稔 他(1998年)「港北ニュータウンのオープンスペースに対する住民意識について-茅ヶ崎東地区におけるケース・スタディー-」/日本建築学会大会学術講演梗概集
- 黒沼卓信 他(2008年)「港北ニュータウンのグリーンマトリックスシステムにおける幼児の公園利用実態とその要因に関する研究」/日本都市計画学会 都市計画報告集 No.6, pp.144-147